

聖書日課 『からし種』 2022.4.24-5.1

<p>4月24日 (日) エフェソ 1章</p>	<p>「どうか…御父が…心の目を開いてくださるよう。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか…悟らせてくださるよう」(17-18節)。神が心の目を開いてくださらないと弟子たちは目の前にいる復活の主イエスのことも理解できなかった(ルカ 24:31)。今日、私たちの心の目が開かれ、目の前にある神の恵みに気づかせていただけるように。</p>
<p>25日 (月) エフェソ 2章</p>	<p>「事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは自らの力によるのではなく、神の賜物です」(8節)。わたしたち一人ひとは「神の作品」(9節:口語訳)であり、神を愛し、隣人を愛する働きに召し出されている。日々の暮らしの中で、つい目先のことに心奪われがちだけれど、「神の作品」として与えられている「召し」を大切に心に刻みたい。</p>
<p>26日 (火) エフェソ 3章</p>	<p>「わたしたちは主キリストに結ばれており、キリストに対する信仰により、確信をもって、大胆に神に近づくことができます」(12節)。「神に近づく」なんて畏れ多いと思う。そして「そっと遠くに、居させてください」という、どこか日本的な消極さの中に私たちは沈みがちではないか。大胆に「神さま、あなたに近づかせてください」と祈ってみよう。</p>
<p>27日 (水) エフェソ 4章</p>	<p>「平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい」(3節)。「それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです」(4節)。個性あふれる一人ひとりが、キリストの体なる教会を共に形づくる者として招かれている。平和の主を通して与えられる「一つの希望」を、教会として一緒に見つめる信仰を求めていきたい。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2022.4.24-5.1

<p>28日 (木)</p> <p>エフェソ 5章</p>	<p>「キリストがわたしたちを愛して、御自分を香りのよい供え物…としてわたしたちのために神に献げてくださったように、あなたがたも愛によって歩みなさい」(2節)。キリストが教えてくださったのは「自分を献げる愛」。いつも自分が中心で、「自分が大事な」私たちに一番難しいこと。小さなことでも「献げること」を大切にできた時、その喜びが私たちを変えていく。</p>
<p>29日 (金)</p> <p>エフェソ 6章</p>	<p>「最後に言う。主に依り頼み、その偉大な力によって強くないなさい」(10節)。エフェソの手紙が語る「強さ」は「霊的な強さ」。神の真理を帯としてしっかり腰に締め、神の正義を胸当てに着け、神の平和を告げる履物をはく。「わたしの真理や正義」で戦おうとするのではなく、神の真理と正義を祈り求めていく歩み。朝ごとに神の前に静まり、その力を求めていこう。</p>
<p>30日 (土)</p> <p>フィリピ 1章</p>	<p>「あなたがたの中で善い業を始められた方が、キリスト・イエスの日までに、その業を成し遂げてくださると、わたしは確信しています」(6節)。神が私たちの間に始められた「善い業」。それは神賛美。日々世界に起こる現実を見る限り、私たちには賛美できないことが多いけれど、最後には神は世界中を神賛美で満たしてください。その希望に向けて歩いていこう。</p>
<p>5月1日 (日)</p> <p>フィリピ 2章</p>	<p>「わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい」(12節)。十字架で復活した主イエスを今私たちは見ることはできない。しかし、主の教会につながる者として、主が託してくださった働きを大切にを進めていくことができますように。</p>